実行計画事業

第５次総合計画の未来像である**「首都圏でいちばん人が輝く町」**を実現するため、令和３年度から令和７年度に取り組む事業を掲載しています。

これらの事業については半年ごとに市民の皆様にその進捗状況をお知らせします。

＊予算書の事業名と一致しないものは、予算書での事業名を〔○○事業〕と表記しています。
＊住民１人あたりの額は、令和7年１月１日現在の人口（33,471 人）で除して求めています。

※進捗状況等はこちらから確認できます。

第５次総合計画

総合計画進捗状況

第5次総合計画　前期実行計画事業

構想1　宮代らしさを価値として高めていく

東武スカイツリーラインの終点である宮代町は、北関東への入り口であると同時に東京への入り口でもあります。日本工業大学、東武動物公園が立地し、進修館、山崎山、新しい村などの資源は人々を惹きつける魅力にあふれています。わずか１６平方キロメートルの中に、宮代町の魅力を高める要素が、ふんだんに詰め込まれています。

宮代町では建物が低層に建ち並んでいる、空が高い、駅を降りて視野の先に平地林が見えるといった特性があります。また、小生物、鳥などは、私たちの生活が自然とともにあることを実感させてくれます。古利根川や姫宮落川など、大小の河川が流れ、沿うように点在する桜は 4000 本近くになり、各地域の寺社、教会、地域に今も残る行事は有形無形の魅力を今に伝えています。こうした宮代町の特性は、都会においてはすでに失われ、望んでも手に入らないものです。

町に住む人も、外から訪れる人も、こうした宮代町の魅力をかけがえのないものとしてともに認識し、未来につむいでいくことで、「宮代らしさ」を価値として高めていくことが大切です。そのためには、町民自身が町の良さを知り、外に伝えていく、ハード事業、ソフト事業問わず、町の施策の一つひとつで、こうした町の良さを意識しながら事業を進めていく必要があります。そして外に向かって、繰り返し丁寧に「宮代らしさ」を伝えていき、「さすが宮代」「なるほど宮代」「やっぱり宮代」と思わせる取り組みを進めていきます。

方針 A　町の原風景を形づくる「農」の資源を生かしていく

方針にもとづく実行計画事業

西原自然の森活用事業（里山体験事業編） P11
西原自然の森活用事業（移築民家活用編） P11
新しい村魅力アップ事業　P12
集落で支えあう営農事業　P12
宮代農業人材育成事業 P13

方針 B　東武動物公園駅西口エリアの魅力を高めていく

方針にもとづく実行計画事業

東武動物公園駅西口わくわくロード事業 P14
まちなかどこでもミュージアム事業 P14

方針 C　宮代を発信していく

方針にもとづく実行計画事業

みやしろズームアッププロジェクト P15
西原自然の森活用事業（里山体験事業編）（再掲）
西原自然の森活用事業（移築民家活用編）（再掲）

第5次総合計画　前期実行計画事業

構想2　コンパクトな町の強みを活かす

町域が狭く、その中心を鉄道が縦断しているということや、過去においてコンパクト化を志向してきたということもあり、他の自治体が望んでいるコンパクトシティの姿が、すでに宮代町にはあります。こうした宮代町の特性は高齢化社会の中においてはプラスに働きます。コンパクトなまちは比較的「顔が見える関係」を築きやすく、住民と住民、生産者と消費者、店舗と顧客など、顔が見える関係を広げ、深めていくことができ、安心や安全、地域経済における好循環をもたらすことができます。

しかし、これからの１０年はさらなる高齢化に突入する１０年でもあり、「今まではそうだった」では、済まなくなってきています。人々が生活する範囲も今までよりも狭まってきます。進修館に出てきて何かをする、というのが出来にくくなります。それよりもむしろ、地域の集会所や公民館で活動する機会が増えてくることになります。人々の足は進修館や役場から遠のき、自らが生活する半径２００メートル程の世界に孤立してしまいます。

こうした皆さんが行政に対する関心や興味を失ってしまい、あきらめに近い気持ちを持つようになってはいけません。行政の目が届かなくなってしまう人々が出現しないようにしなければなりません。地域ごとの地域交流サロンにより、地域の皆さんが交流できる場、を行政が支援する、ということから一歩踏み出し、行政が役場という「本丸」を出て、地域コミュニティをサポートし、町民との共同作業ができる素地を作ることも必要になってきます。このことで、コンパクトな町の強みを活かしていきます。

方針Ｄ　歩きたくなる「まちなか」をつくる

方針にもとづく実行計画事業

遊休資源活用プロデュース事業　P16
岸辺遊歩道整備事業　P16
地域のオリジナルパークをつくろう！　P17

方針Ｅ　日々の生活のアクセス性を高める

方針にもとづく実行計画事業

宮代型デマンド交通事業　P17
広域道路ネットワークの整備（都市計画道路整備事業）　P18
東武動物公園駅東口にぎわいロード事業　　P18
和戸駅周辺活性化事業　P19
姫宮駅西側周辺活性化事業　P19
地域の力となる地区コミュニティセンター事業　P19

方針Ｆ　顔が見える地域経済をつくる

方針にもとづく実行計画事業

小商いからはじめようチャレンジショップ推進事業　P20
身近な場所で子育てサロン事業　P20

第5次総合計画　前期実行計画事業

構想3　さまざまな活動や主体を生み出す

人口減少・高齢化社会に対応するためには、かつて例のない、あるいは予測できないような社会変化にも対応していかなければなりません。そのためには、行政が旗ふりをして住民を組織するという、かつてのモデルではなく、町民自らが足元の課題に気づき、意思をもって解決していくことが重要になってきます。町が行政課題を的確に捉え、目の前の問題を解決していくのと同じぐらい、あるいは、それ以上に、町民が自らの意思によって社会的な課題を解決することは大きな意義を持ちます。町民が主役になって行動を始めてこそ、町は大きく変わっていきます。

そのためには、ある一時に行政が目的をもって市民活動の発生を促すというよりも、その時々の社会情勢や、地域課題に対応した町民による活動が自発的、自然発生的に生まれる、そういう町になる必要があります。市民活動や地域活動に取り組む団体は、その分野における専門家集団でもあります。町民が地域の課題や将来に興味を持ち、共に学び、実践することを繰り返す、こうした共通の場、オープンな仕組みを、１０年後を見すえて町が用意することも求められています。

一方で民間企業が本業を通して地域貢献を行うという考え方が定着しつつあり、公共的な課題を解決し、持続可能な公共サービスを提供するためには従来の発想や固定概念にとらわれずに、あらゆる分野で行政と民間企業の連携を進める「官民連携」手法を取り入れていくことも必要です。また、公共施設だけでなく、空き家、空き店舗などの点在する遊休スペースや街区公園を有効に使い、さまざまな活動の場に生まれ変わることを視野に入れていきます。

方針Ｇ　地域に人々が集まる場を生み出す

方針にもとづく実行計画事業

地域のみんなでこどもたちの居場所づくり事業　P21
身近な場所で子育てサロン事業（再掲）
まちなかどこでもミュージアム事業（再掲）

方針Ｈ　活動が生まれる「学び舎（学びのプラットフォーム）づくり」

方針にもとづく実行計画事業

進修館オープンカレッジ　P22
おかえりなさい！地域デビュー事業　P22
西原自然の森活用事業（新たな福祉の拠点づくり編）　P23
若い世代の健康づくり促進事業　P23
人権・平和推進事業　P24

方針Ｉ　町の中のキープレイヤー同士で連携する

方針にもとづく実行計画事業

チームみやしろ会議　P25

方針Ｊ　町の中の遊休スペースを効果的に活用する

方針にもとづく実行計画事業

遊休資源活用プロデュース事業（再掲）
地域のオリジナルパークをつくろう！（再掲）

第5次総合計画　前期実行計画事業

構想4　社会環境の変化に対応し行政運営を変化させ続ける

宮代町は平成１７年度に策定した「公共改革プログラム」において、町を創り、動かしていくのは行政だけでなく、それ以外の主体、ＮＰＯや市民グループ、民間企業もそれぞれに公共的な役割を果たしていくことが可能であるということを示しました。「行政改革」ではなく「公共改革」としたのは、こうした理由によります。そして、改革目標として「前例にとらわれない効率的な行政」「多様な主体による公共の運営」「財政運営と財政基盤の強化」を掲げました。こうした考え方の骨子そのものは、現在も変わるものではありません。

しかし、目の前にある社会的課題は、時の流れとともに、刻々と変化しています。新しいと思われた考えや仕組みは、いつかは時代遅れとなり、当たり前と思われていたことも、当たり前ではなくなってきています。前例踏襲や慣例にとらわれず新しい一歩を踏み出すためには常に行政も変わっていかなければなりません。また、町の取り組むべき課題は、子育て支援、高齢者の居場所づくりなどさまざまな世代に及んでいます。地域コミュニティ、公共施設のあり方、地域福祉、定住促進など、一つの分野だけで完結することはなく、相互に関連しあいながら課題を解決していくことが求められています。こうしたことを念頭に行政は変化し続けていく必要があります。

方針Ｋ　縦割りから横断的行政運営へ

方針にもとづく実行計画事業

西原自然の森活用事業（新たな福祉の拠点づくり編）（再掲）

チームみやしろ会議（再掲）

みんなで備える防災力強化促進事業　P25

方針Ｌ　多様な主体による公共の運営

方針にもとづく実行計画事業

高齢者困りごとサポート隊事業　P26

日工大サイエンスプロジェクト　P26

地域のみんなでこどもたちの居場所づくり事業（再掲）

方針Ｍ　今後求められる機能を核とした公共施設の再編

方針にもとづく実行計画事業

公共施設マネジメント計画 2.0

宮代町立小中学校適正配置事業　P27

西原自然の森活用事業（里山体験事業編）
［みやしろの魅力推進事業］

環境資源課
環境推進担当（293）

総事業費 30万円

一人あたり 9円

町からの支出 30万円

その他の財源 0万円

令和７年度の目標

里山（竹林）の魅力向上や保全に対する理解促進につなげていくため、市民との協働により、里山の資源を活かした体験イベント等の企画運営や情報発信を行います。

□西原自然の森体験事業（消耗品費等） 30 万円
市民との協働による体験イベント等にかかる経費

西原自然の森活用事業（移築民家活用編）
［資料館管理運営事業］

教育推進課　文化財保護担当
（郷土資料館）34－8882

総事業費 13万円

一人あたり 20円

町からの支出 13万円

その他の財源 0万円

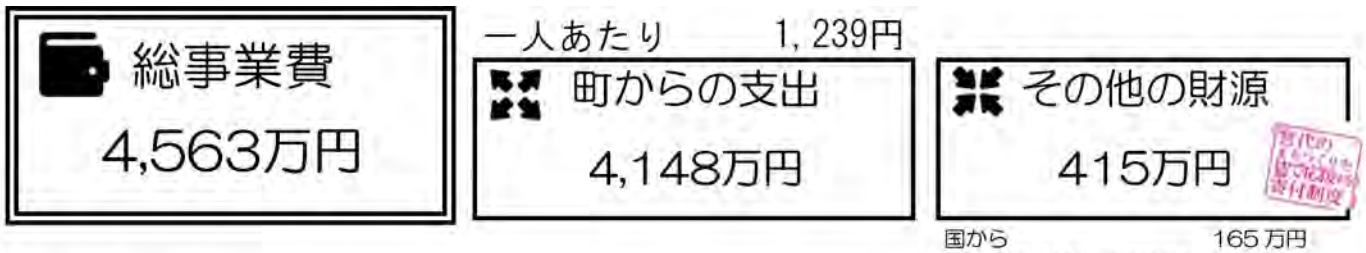
令和７年度の目標

西原自然の森の魅力を高めるため、移築民家の「旧加藤家」をはじめとした「旧齋藤家」「旧進修館」の指定文化財を保全しつつ、可能な限り活用できる計画を作成し、活用を進めていきます。

□講師謝金 5 万円
イベント等における講師にかかる経費
□イベントチラシ印刷 3 万円
イベント周知用チラシの印刷製本にかかる経費
□イベント用消耗品購入費 5 万円
イベント用消耗品の購入にかかる経費

新しい村魅力アップ事業
[新しい村管理運営事業]

産業観光課
農業振興担当(266)



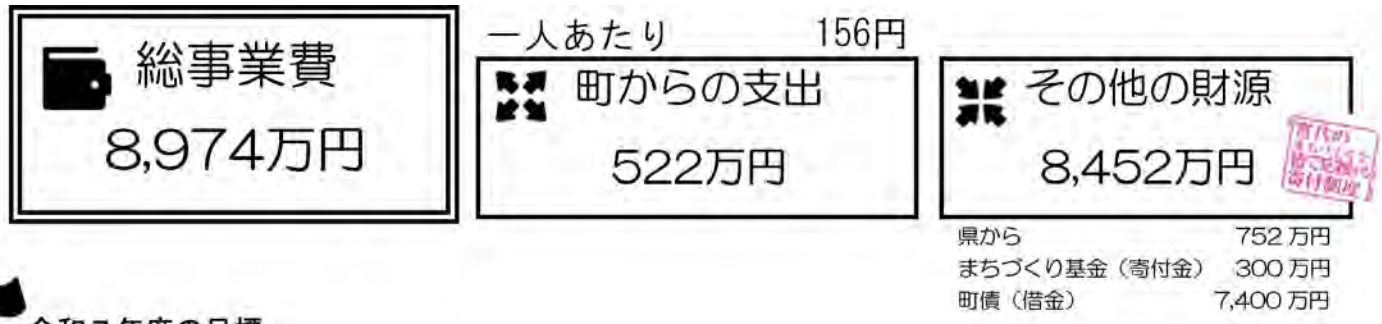
令和７年度の目標

昨年度作成した既存施設等改修概略設計に基づき、新しい村の機能を維持・強化し、長寿命化を図るため、既存施設の改修を行います。また、新しい村の魅力アップの推進やＰＲを強化する担い手人材の確保や育成方法の検討を行います。

- ☐ **新しい村機械庫外壁改修工事** 770 万円
- ☐ **枯木樹木伐採・剪定業務委託** 330 万円
- ☐ **指定管理者による事業及び管理運営** 3,435 万円
  指定管理者による各施設の管理運営及び事業運営にかかる経費
  ・指定管理者　株式会社新しい村
  ・指定期間　　令和５年４月１日～令和１０年３月３１日
- ☐ **その他の経費** 28 万円

集落で支えあう営農事業
[農業生産基盤推進事業]

産業観光課
農地調整担当(267)



令和７年度の目標

宮東・中島地区の圃場整備事業を埼玉県及び地元土地改良組合とともに推進します。本年度は、用地買収及び圃場整備工事を行います。また、宇山崎地区で水路の改修工事を行い、営農環境の向上を図ります。

- ☐ **宮東・中島地区圃場整備事業** 6,137 万円
  用地買収及び圃場整備工事等の実施にかかる経費
- ☐ **農業用用排水路の改修工事** 2,629 万円
  宇山崎地区の土水路（延長 252m）をコンクリートフリュームへ改修にかかる経費
- ☐ **小規模農地基盤整備事業の推進** 70 万円
- ☐ **多面的機能支払交付金の交付** 138 万円

宮代農業人材育成事業
[明日の農業担い手支援事業]

産業観光課
農業振興担当(262)

総事業費	町からの支出	その他の財源
1,234万円	1,056万円	178万円

一人あたり　315円

県から	45万円
まちづくり基金（寄付金）	120万円
行政財産使用料	13万円

令和７年度の目標

宮代町内で新たに就農を志す方を農業担い手塾で塾生として受け入れ、新規就農者を育成・確保するとともに、入塾前研修制度に基づいた農家実習により農作業や栽培経験の少ない就農希望者の受入れを行います。また、スマート農業を推進するため、農業用ドローンを導入して効果的な防除事業への取組を支援します。

□ 農業担い手塾での研修生の受入れ及び実践研修の実施 82 万円

□ 新規就農里親制度の実施 36 万円

農業担い手塾の塾生や新規就農者に対して技術指導や生産基盤を提供できる農家を里親農家（農業技術支援農家及び生産基盤支援農家）として登録し、新規就農者の支援にかかる経費

□ スマート農業の推進 250 万円

スマート農業による農業経営の省力化や農作物の高品質生産を実現するため農業用ドローンを導入して、水稲を加害する斑点米カメムシ等に対する効果的な防除事業への取組の支援にかかる経費

□ 「農」のあるまちづくり担い手支援対策事業補助金の活用促進 850 万円

農業機械や栽培施設等の農業設備等への投資に対する支援として、「農」のあるまちづくり担い手支援対策事業補助金の活用を促進し、経営規模の拡大や高付加価値型農業への取組を積極的に行う担い手経営体の育成にかかる経費

□ 農業講座の実施 4 万円

稲作農家の後継者をはじめ栽培経験の少ない方を対象に「稲作講座（全３回)」を実施するとともに、農業機械のメンテナンスの知識・技術の習得を目指すため、農業機械メンテナンス講座の実施にかかる経費

□ 農商工連携による農業の６次化の推進 8 万円

農業者と商業者の連携による宮代産農産物の活用や商品化への取組を支援するとともに、宮代産農産物を積極的に取り扱う町内店舗を「宮代町地産地消推進の店」として認定し、町内外に幅広く PR することにかかる経費

□ 地産地消レシピ動画の作成・配信 4 万円

宮代産農産物を使ったレシピ動画の作成・配信を行い、地産地消への関心と理解を深めるとともに消費拡大を推進する経費

東武動物公園駅西口わくわくロード事業
［東武動物公園駅西口周辺整備事業］

まちづくり建設課
道路担当（332）

総事業費 1,333万円

一人あたり 261円

町からの支出 873万円

その他の財源 460万円

まちづくり基金（寄付金） 460万円

令和７年度の目標

駅から東武動物公園、新しい村までを、町民・観光客・事業者と共にアイデアを出し合いながら、歩いて楽しくわくわくするような道に整備し、西口エリアの価値を高めます。併せて駅西口区画整理エリアの土地活用を推進します。

□ 景観整備の実施 1,333 万円

市民のアイデアを基に景観整備等の実施にかかる経費

まちなかどこでもミュージアム事業
［社会教育活動事業］

教育推進課
生涯学習･スポーツ振興担当（433）

総事業費 168万円

一人あたり 50円

町からの支出 168万円

その他の財源 0万円

令和７年度の目標

昨年度の結果を踏まえ「みやしろ芸術祭パートナーシップ補助事業」の見直し行い、参加者が主体的に企画・運営する取組をさらに促進していきます。

また、引き続き町ホームページや SNS を積極的に活用し、アート情報を発信していくとともに、公共空間等で行うアート活動を場づくりの面から応援する活動キットの貸出を行います。

□ みやしろ芸術祭の開催 153 万円

パンフレット等印刷費や準備作業等の委託料など芸術祭開催にかかる経費

□ 活動応援キットの整備等 15 万円

芸術活動を支援するための物品の購入等

みやしろズームアッププロジェクト

総務課
秘書広報担当（207）

総事業費	一人あたり 10円	
53万円	町からの支出 33万円	その他の財源 20万円

みやしろ缶バッジ頒布代　20万円

令和７年度の目標

町の魅力の情報発信力向上を図るため、みんなが地域の特派員と協働し、インターネットや広報紙で情報発信を行います。町を知り・伝え・町の魅力を発信する担い手を増やすために、公式ハッシュタグ『＃みやしろまち』や『みやしろ缶バッジ』による町の魅力発信を行います。

また、町内で実施する事業と連携し、ＰＲ支援を行います。

□「みんなが地域の特派員」の活動支援　29 万円

町と協働し、インターネットを活用し SNS や動画、広報紙で情報発信する市民「みんなが地域の特派員」の活動・技術向上の支援にかかる経費

宮代町インターネット放送局
MTV
Miyashiro TV
YOUTUBEで動画配信中!

□町公式ハッシュタグ「＃みやしろまち」の普及、「みやしろ缶バッジ」の作製　23 万円

町の魅力を発信する町公式ハッシュタグ『＃みやしろまち』や『みやしろーかる』を広めるためにマルシェ等への出展や、宮代の魅力を再発見するための「みやしろ缶バッジ」の作成にかかる経費

◆町公式ハッシュタグ「＃みやしろまち」を広めるためにマルシェ等へ出展

◆宮代町の魅力を PR するための「みやしろ缶バッジ」や町公式 SNS を掲載している「名刺カード」の作製。

遊休資源活用プロデュース事業

企画財政課
管財担当（211･212）

総事業費
0万円

一人あたり　0円

町からの支出
0万円

その他の財源
0万円

令和７年度の目標

庁舎遊休スペースは引き続き各課で活用するとともに、事例の公表を行い、新たな活用方策を募集します。また、町が所有する普通財産の有効活用を図るため、条件の良い普通財産を分類し、活用方策を検討します。

□ 活用提案の募集
普通財産カルテ・庁舎内遊休スペース活用計画を基に活用を検討

□ 活用事例の収集・公表
官民の遊休スペースを利活用した取組の収集・公表

岸辺遊歩道整備事業

まちづくり建設課
道路担当（332）

総事業費
802万円

一人あたり　24円

町からの支出
82万円

その他の財源
720万円

町債（借金）　720万円

令和７年度の目標

備前堀川等において、自治会や地域の関係団体などと共にアイデアを出し合い、地域に親しまれ愛される遊歩道や水辺を整備します。令和７年度は備前堀川右岸の舗装修繕工事を実施します。

□ 岸辺遊歩道等の整備　802 万円
既存道路（遊歩道）の舗装修繕工事等にかかる経費

地域のオリジナルパークをつくろう！
［公園等環境管理事業］

未来のまち整備課
都市計画･土地利用推進担当　（341）

総事業費 52万円

一人あたり　16円

町からの支出 52万円

その他の財源 0万円

令和７年度の目標

公園等施設整備後のそれぞれの公園に合わせ、地域の人々の集いの場となるよう、引き続き社会実験等を行います。

□ **社会実験実施等**　52 万円

それぞれの公園ごとに社会実験等を実施する経費

宮代型デマンド交通事業
［便利バスが走る事業、高齢者等タクシー助成事業］

健康介護課　高齢者支援担(382)
企画財政課　管財担当（212）

総事業費 1,945万円

一人あたり　581円

町からの支出 1,945万円

その他の財源 0万円

令和７年度の目標

７５歳以上の高齢者等の移動手段を補うタクシー助成を実施し、日常生活の支援と生きがいづくりにつながる活動への参加を促します。

また、町内循環バスを安心して利用していただけるよう、安全第一を基本に運行しつつ、令和１０年度以降を見据え、宮代町の地域特性に合った交通形態を検討するための基礎資料となる交通需要調査を行います。

□ **高齢者等タクシー助成事業の実施**　1,406 万円

対象者　　７５歳以上の高齢者と障がい者等　※事前登録制
助成方法　300 円の助成券を交付　１回２枚利用可能　　年間４８枚（月４枚相当）
利用範囲　乗車地と降車地のいずれかが宮代町内であること
利用方法　料金支払時に、「登録証」を提示し、「助成券」を提出
※1 回の乗車で１人２枚利用可能（複数の登録者が同乗の場合は、１人２枚まで利用可能）
※登録者の付き添いであれば、誰でも同乗可

□ **交通需要調査委託料**　500 万円

□ **需要調査郵送料**　39 万円

広域道路ネットワークの整備
[都市計画道路整備事業]

まちづくり建設課
道路担当（332）

総事業費
2億4,087万円

一人あたり　33円

町からの支出
112万円

その他の財源
2億3,975万円

都市計画税	1,575万円
国から	8,910万円
町債（借金）	1億3,490万円

令和７年度の目標

都市計画道路春日部久喜線（町道第１２号線及び町道第２５２号線延伸）都市計画道路万願寺橋通り線（町道第７５号線）の整備を実施します。

□ **都市計画道路春日部久喜線（町道第 12 号線）の整備**　1 億 2,187 万円
用地買収、道路整備にかかる経費

□ **都市計画道路春日部久喜線（町道第 252 号線の延伸）の整備**　1 億 1,250 万円
測量設計、用地買収、橋りょう整備（春日部市負担金）にかかる経費

□ **都市計画道路万願寺橋通り線（町道第 75 号線）の整備**　650 万円
交差点設計にかかる経費。

※位置図等の詳細は都市計画道路整備事業　P93

東武動物公園駅東口にぎわいロード事業
[東武動物公園駅東口周辺整備事業]

まちづくり建設課
道路担当（332）

総事業費
3億1,007万円

一人あたり　21円

町からの支出
69万円

その他の財源
3億0,938万円

都市計画税	1,998万円
国から	1億1,000万円
町債（借金）	1億7,940万円

令和７年度の目標

都市計画道路東武動物公園駅東口駅前広場の早期完成を目指し用地交渉及び用地買収を進めます。また、都市計画道路東武動物公園駅東口通り線の完成に向け、埼玉県と調整を行います。

□ **東武動物公園駅東口駅前広場整備**　2 億 9,507 万円
用地補償・買収地舗装工事にかかる経費

□ **東武動物公園駅東口通り線**　1,500 万円
街路事業負担金（県事業に対する負担金）

和戸駅周辺活性化事業
［都市計画総務事業］

未来のまち整備課
都市計画･土地利用推進担当　（341）

総事業費 500万円

一人あたり　149円

町からの支出 500万円

その他の財源 0万円

令和７年度の目標

地域の特性を踏まえて、地元住民等との意見交換を通じて産業系の土地利用を促進します。

□ **和戸駅西側地区内の主要道路拡幅に向けた路線測量及び予備設計**　500 万円

地域住民等の意向を踏まえ、地域の骨格となる道路の路線測量や予備設計にかかる経費

姫宮駅西側周辺活性化事業
［都市計画総務事業］

未来のまち整備課
都市計画･土地利用推進担当　（341）

総事業費 0万円

一人あたり　0円

町からの支出 0万円

その他の財源 0万円

令和７年度の目標

地域の特性を踏まえて、企業等への情報提要や意見交換を重ねることで、産業系の土地利用を促進します。

□ **産業系土地利用の検討等**

町道第２５２号線の北春日部方面への整備延伸にあわせて、広域幹線道路の沿道地区としての交通利便性を活かした産業系の土地利用を促進

地域の力となる地区コミュニティセンター事業
［地区コミュニティセンター事業］

地域支援課
地域振興担当（281）

総事業費 10万円

一人あたり　3円

町からの支出 10万円

その他の財源 0万円

令和７年度の目標

令和５年度からスタートしました各地区・自治会を対象に地区コミュニティ活動の支援事業（訪問事業）を継続実施します。また、開設にあたっては、「宮代町立小中学校適正配置事業」の須賀小学校再整備の工程に合わせて検討していきます。

□ **地区・自治会支援事業の実施**　10 万円

町内各地区や自治会を訪問しコミュニケーションを図りながら、地域課題に取り組む活動を支援し、課題の解決や地区コミュニティの活性化を促進するための経費

小商いからはじめようチャレンジショップ推進事業
[まちなか起業創業支援事業]

産業観光課
商工観光･ふるさと納税担当 （265）

総事業費 494万円

一人あたり 108円

町からの支出 360万円

その他の財源 134万円

まちづくり基金（寄付金） 30 万円
負担金 104 万円

令和７年度の目標

宮代町での起業を促進するため、月３万円ビジネス講座や起業創業セミナー等を開催します。また、起業創業に関する補助制度等を実施します。

☐ **企業創業支援事業の実施** 337 万円

月３万円ビジネス講座や創業セミナー等の起業志望者を支援する講座にかかる経費

☐ **企業創業支援事業の実施** 140 万円

チャレンジショップの仕組みなどに合わせ企業創業に関する補助金

☐ **事業者の話を聞く会の開催** 17 万円

未来の起業家を育てるため、中学生に向けた町内で活躍する事業者の話を聞く会開催にかかる経費

身近な場所で子育てサロン事業
[みんなで子育て！こども未来事業]

子育て支援課
こども笑顔担当 （324）

総事業費 40万円

一人あたり 0円

町からの支出 0万円

その他の財源 40万円

まちづくり基金（寄付金） 40 万円

令和７年度の目標

地域子育てサロンの主体的な運営を促進するため、保育ボランティアの派遣、備品の貸出、活動費の補助等の支援を行います。また、子育て情報サイト「みやしろで育てよっ」やインスタグラム、LINE等を活用し、地域子育てサロンの特集やイベント、講座などの情報を発信していきます。

☐ **地域子育てサロン開催支援（開催補助金）** 35 万円
☐ **通信費、事務用品費** 5 万円
☐ **子育て情報サイト「みやしろで育てよっ」の運営、情報発信等**

地域のみんなでこどもたちの居場所づくり事業①
［みんなで子育て！こども未来事業］

子育て支援課
こども笑顔担当 （324）

総事業費
25万円

一人あたり　3円

町からの支出
10万円

その他の財源
15万円

まちづくり基金（寄付金）　15 万円

令和７年度の目標

こどもの居場所づくりの主体的かつ継続的な運営を支援するため、活動団体に対し、ボランティアの派遣、備品の貸出、活動費の補助等を行います。また、団体の活動周知を図るため、子育て応援ウェブサイト等を活用するとともに、合同イベントを開催します。

- ☐ 居場所づくり開催支援（開催補助金）　20 万円
- ☐ 通信費、事務用品費　5 万円
- ☐ 子育て情報サイト「みやしろで育てよっ」の運営、情報発信等

地域のみんなでこどもたちの居場所づくり事業②
［教育支援センター運営事業］

教育推進課
学校教育担当 （423）

総事業費
646万円

一人あたり　193円

町からの支出
646万円

その他の財源
0万円

令和７年度の目標

「宮代町教育支援センター」の持続可能な“カタチ”を利用実態に合わせて整備していきます。

様々な事情で学校に通うことができない宮代町の児童生徒の居場所・学びの場の一つとしての役割を果たせるよう、「教育的な視点・配慮」に重点をおきつつ、児童生徒の実態やニーズに合わせて可能な限り柔軟に運営してまいります。また、学校や関係各課・関係機関とのより円滑な連携方法などを日々更新しながら、持続可能な施設となるよう取り組んでいきます。

- ☐【運営体制等】居心地のよい空間・学びやすい環境づくり、体験的な活動の実施の継続
- ☐【連携体制等】学校との連携強化、関係機関等との連携方法等の具体化やフローの検討
- ☐【安定的な運営の継続】児童生徒一人ひとりに合わせた支援に必要な教材や備品等の整備

進修館オープンカレッジ
［進修館管理事業］

地域支援課
地域振興担当　℡33-3846

総事業費
0万円

一人あたり　0円

町からの支出
0万円

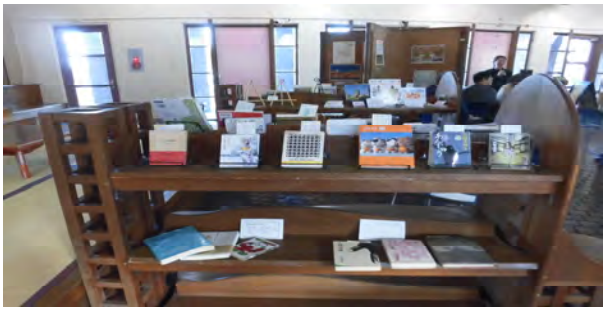
その他の財源
0万円

令和７年度の目標

地域づくりを担う人材やグループを生み出す場として、進修館オープンカレッジを継続して開催します。実施にあたっては、応募のあったテーマに合う開催方法等を調整して実施していきます。

□ 進修館オープンカレッジの運営

様々な世代の方が集まり、テーマに合った手法を活用し、語り合いや学び合いの機会として運営



「わたしのへそ本３冊展」

おかえりなさい！地域デビュー事業
介護保険特別会計［生活支援体制整備事業］

健康介護課
高齢者支援担当（383）

総事業費
40万円

一人あたり　2円

町からの支出
8万円

その他の財源
32万円

国から	15万円
県から	8万円
介護保険料	9万円

令和７年度の目標

定年を迎える世代の方々に、地域活動に関心を持っていただくため、身近な情報から町が取り組む旬の情報まで幅広く掲載した「縁じょい通信」を発行します。

また、縁じょいメンバー等を対象とした「縁じょい交流会」を開催し、地域活動への動機づけ、新たな活動へのチャレンジ、仲間づくりの方法など、地域活動のきっかけづくりを行います。

「シニアはじめて講座」を開催し、シニア同士の繋がりづくりの支援をし、日常生活で役立つ講座を行います。そして、縁じょいライフ事業への登録に繋げ、地域デビューのきっかけとします。

□ 縁じょい通信の発行、縁じょい交流会の開催経費（委託料）　40 万円

西原自然の森活用事業（新たな福祉の拠点づくり編）

［社会福祉事業］

福祉課
福祉支援担当（325）

総事業費 63万円

一人あたり 19円

町からの支出 63万円

その他の財源 0万円

令和７年度の目標

社会福祉協議会と連携して、「福祉交流館　すてっぷ宮代」を活用し、ボランティアの育成に向けたセミナーやイベントを開催します。また、すてっぷ宮代活動チームなどの福祉団体との連携に向けたイベントを開催します。

□ すてっぷ宮代を拠点としたイベントの開催やボランティアの育成　50 万円
□ 西原自然の森フェスタ＆すてっぷまつりの開催　13 万円

若い世代の健康づくり促進事業

［健康教育事業］

健康介護課
健康増進室
TEL 32-1122

総事業費 43万円

一人あたり 13円

町からの支出 43万円

その他の財源 0万円

令和７年度の目標

若い世代の健康づくりを応援するため、託児付き運動教室の開催など、ライフスタイルに合わせた取組を実施します。また、健康レシピの発信や野菜料理写真を募集・紹介することにより、健康づくりに取り組む割合の向上を目指します。

□ 運動関連事業　30 万円
親子ウォーキング教室や託児付きの運動教室など、ライフスタイルに合わせた運動の取組支援にかかる経費
□ 栄養関連事業　2 万円
健康レシピの発信や野菜料理写真の募集・紹介による、家庭での食の健康づくり支援にかかる経費
□ その他の経費　11 万円

人権・平和推進事業

［人権・平和推進事業、男女共同参画社会推進事業、人権教育推進事業、教職員研修奨励事業、小学校管理運営事業］

総務課
人権推進室　（210）
教育推進課
学校教育担当（423）
生涯学習室　（431）

総事業費
446万円

一人あたり　121円

町からの支出
405万円

その他の財源
41万円

国から　2万円
県から　39 万円

令和７年度の目標

あらゆる偏見や差別の解消に向け、町民の人権意識の高揚を図るため、研修会や啓発活動を実施します。また、性別を問わず誰もが対等な立場であらゆる分野に参画できる社会を目指し、研修会やセミナーの開催、情報誌の発行等、意識啓発及び情報提供を行います。

さらに、恒久平和の実現を目指し、町民の平和意識の高揚を図るための事業を実施します。

□ 人権啓発活動の実施　182 万円

様々な人権問題の解決に向け、研修会の開催や啓発活動、人権問題に取り組む団体への助成等にかかる経費

□ 子ども人権講座の実施　4 万円

小学生を対象に人権意識の高揚を図る講座に実施にかかる経費

□ 人権文集「あおぞら」の発行　25 万円

小・中学校の児童生徒による人権作文・標語の作品集の作成と発表会の実施にかかる経費

□ 宮代町人権教育研修会の実施　3 万円

全教職員を対象に研修の実施にかかる経費

□ 男女共同参画セミナー、講演会（研修会）等の開催　13 万円

□ 平和パネル展、平和啓発事業の実施　17 万円

チームみやしろ会議

企画財政課
政策調整担当（214）

総事業費 7万円

一人あたり 2円

町からの支出 7万円

その他の財源 0万円

令和７年度の目標

宮代町で暮らす人や働く人など、官民さまざまな人たちが集まり、新たな活動につながるプラットホーム（※）として、チームみやしろ会議を運営します。

※プラットホーム：共感のテーマとゆるいつながりをもった自由参加の意見交換の場

□ チームみやしろ会議の運営 7 万円

みんなで備える防災力強化促進事業
[防災コミュニティ促進事業]

くらし安全課
危機管理担当（276）

総事業費 232万円

一人あたり 69円

町からの支出 232万円

その他の財源 0万円

令和７年度の目標

民間企業等との災害協定を拡充し、幅広く災害対応をしていきます。町全体で防災意識の高揚を図るとともに、防災力の強化へとつないでいきます。

□ 防災・防犯マスター講座の開催 20 万円
□ 防災訓練災害補償等共済制度加入費 3 万円
□ 自主防災活動に対する支援 200 万円
（組織の活動に対する補助）
□ その他の経費 9 万円

高齢者困りごとサポート隊事業
介護保険特別会計［生活支援体制整備事業］

健康介護課
高齢者支援担当（383）

総事業費 425万円

一人あたり 24円

町からの支出 82万円

その他の財源 343万円

国から	163 万円
県から	82 万円
介護保険料	98 万円

令和７年度の目標

社会福祉協議会に委託している生活支援コーディネーターとともに、地域の支え合いの輪を広げていくために地域住民同士で話しあう場「協議体」を運営し、助け合い活動を増やすための方法を検討し、生活支援の担い手、地域交流サロンの担い手等を発掘していきます。

また、地域住民同士での助け合いグループの結成に向けて働きかけます。

- ☐ **生活支援コーディネーター委託料** 370 万円
- ☐ **生活支援体制整備に向けた会議（協議体）の開催経費等** 55 万円

日工大サイエンスプロジェクト

教育推進課
学校教育担当　（423）

総事業費 62万円

一人あたり 19円

町からの支出 62万円

その他の財源 0万円

令和７年度の目標

日本工業大学の施設と専門的な人材を活用した理科授業を実施します。
（町内の中学校３校の生徒と小学校４校の児童を対象として実施）
夏季休業期間中に小・中学校の先生を対象とした研修会を実施します。
（日本工業大学の施設と人材を活用）
理科に対する意識調査を実施します。
（Google フォームによるアンケートの実施）

- ☐ **日本工業大学と連携した理科授業の実施** 58 万円
- ☐ **その他の経費** 4 万円

宮代町立小中学校適正配置事業	教育推進課 教育総務担当（425）

総事業費	一人あたり 4,192円	
1億3,988万円	町からの支出 1億3,988万円	その他の財源 0万円

令和７年度の目標

老朽化が進んだ須賀小学校を地域拠点施設として多機能化する再整備を行うため、整備推進委員会を開催し、須賀小学校地域拠点施設基本設計を基に実施設計を行います。

□ 町立小中学校の適正配置

須賀小学校地域拠点施設の整備に向けた、実施設計等にかかる経費（繰越明許分）1 億 3,921 万円
整備推進委員会の開催にかかる経費 67 万円